

ミツバ (セリ科)

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
タネまき				収穫							

品種

糸ミツバとして適している関西白茎ミツバが、家庭向き。

栽培ポイント

冷涼な気候を好み、半日陰で湿りけの多い、肥沃な土ほどよくできます。かといって排水が悪いと、病害の発生が多くなります。また、酸性には弱いので、畝作りの1週間前に、1㎡あたり2握りの苦土石灰を施して耕しておきます。元肥えは1㎡あたりバケツ1杯の堆肥と2握りの化成肥料を全面に施します。

タネは吸水しにくいので、一昼夜、水に浸してからまくと、発芽がよくなります。また、タネは好光性ですから、覆土は薄くします。

発芽まで2週間ぐらいかかりますが、その間乾かさないようにすることがたいせつです。

糸ミツバはやわらかく育てるために、密植させて、生育中は乾燥を防ぎます。特に夏の高温、乾燥、強い光線は生育を悪くしますから、寒紗で遮光します。草丈が15~20cmになったら、刈りとり収穫すれば、残った株からは、再び芽が伸びてきて、再度利用できます。根ミツバは、5月中旬ごろタネまきして根株を養成し、盛り土して軟化します。

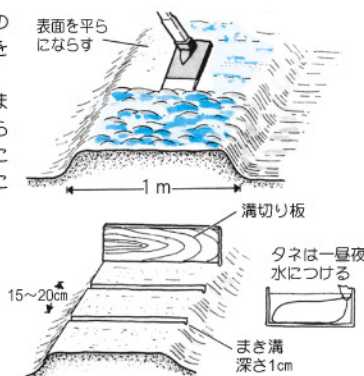
栄養

緑色をした糸ミツバには、カルシウム、カロチン、ビタミンCなどを豊富に含んでいますが、軟化ミツバは栄養価が劣ります。

1 糸ミツバのタネまき

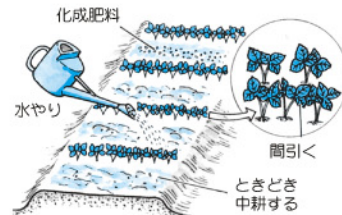
元肥えをまぜておいた畝の表面を平にならし、まき溝を15~20cm間隔につける。

タネは吸水させてから、まき溝いっぱい5mm間隔ぐらいにまき、2~3mmの薄さに覆土して軽くおさえる。上に薄くわらを敷き、水をやる。



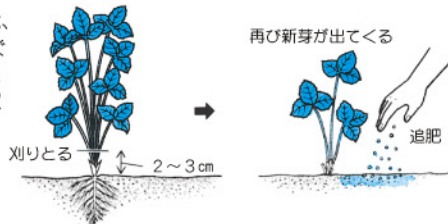
2 生育中の管理

発芽後、子葉が重ならない程度に間引くだけで、密植がみでよい。発芽後はときどき水をやって、乾燥を防ぐ。追肥は、生育期間中2~3回、化成肥料を条間に軽くばらまき、中耕する。



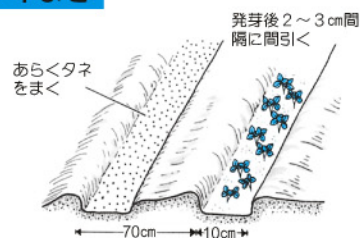
3 糸ミツバの収穫

収穫までの日数は、春、秋で50~60日ぐらい。株ごと抜きとっても、刈りとり収穫をしてもよい。



4 根ミツバのタネまき

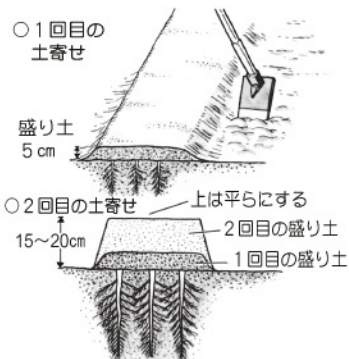
根ミツバは、軟白のための盛り土ができるよう畝幅を広くとる。浅いまき溝を作り、溝いっぱい、糸ミツバよりあらくタネをまく。発芽後に間引きを行い、6~7月と9月10月の2回、追肥して根株を養成する。



5 根ミツバの軟化法

冬になって地上部が枯れたら、枯れ葉をとり除き、軽く土寄せする。

新芽の出始める前の3月上旬~中旬に、再び15~20cmの高さに盛り土をする。



主な病害虫

- ◆病気 菌核病
- ◆害虫 アブラムシ

6 根ミツバの収穫

軟白日数30~40日で、地上部に葉が出てきたら、掘りとり収穫する。

